

研究主題 難言教育の専門性向上に向けて

団体の概要：東京都公立学校難聴・言語障害教育研究協議会は、東京都の公立学校難聴・言語障害通級指導学級の研究会である。都内区市町村の小学校を11ブロック、中学校を1ブロックとして、ブロックごとに研究を行っている。例年、都難言協全体の研究発表は、該当するブロックが行っているため、今年度は4ブロック（城北ブロック・江北ブロック・江南ブロック・多摩西ブロック）の研究について報告する。

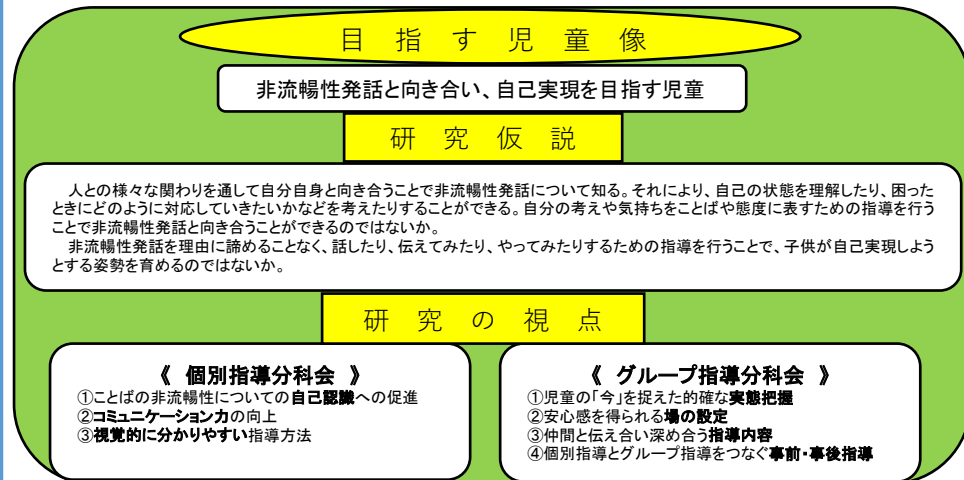
城北ブロック

「非流暢性発話のある児童への指導・支援
～個別指導とグループ指導を通して自己実現を目指す児童の育成～」

I 研究の構想

研究主題：非流暢性発話のある児童への指導・支援
～個別指導とグループ指導を通して自己実現を目指す児童の育成～

（目的） 非流暢性発話のある児童への個別指導事例やグループ指導事例の蓄積により有効な指導方法や教材を見出し、研鑽し、実践、検証、共有する。



II 研究の方法

指導をする上で、個別指導とグループ指導はどちらも大事であり、相互に関連付けて指導していくことがより効果的ではないかと考えた。そこで、個別指導分科会とグループ指導分科会に分かれ、分科会ごとの視点に沿って事例研究を行い、自己実現を目指す児童の育成を図った。

III 研究の成果と今後の展望

「非流暢性発話と向き合い、自己実現を目指す」という児童像が確立し、指導・支援についての方向性がより明確になった。

今後は、個別指導分科会とグループ指導分科会の取り組みをブロック全体に更に広げることで、非流暢性発話の指導・支援をより充実させる必要がある。

江北ブロック

「一人一人の実態に応じた指導の工夫～伝える力を高めるために～」

I 研究の目的と方法

文京区、豊島区、練馬区の8校からなる江北ブロックでは、児童の実態把握を丁寧に行い、児童の主たる課題が何かを見立て、目標に対応した指導を実践していくことで指導力を向上させたいと考えた。特に、言語発達に課題のある児童の伝える力を高めることを目指し、上記の研究テーマを設定した。

事例検討を通して、事例児童の言語発達の課題について協議し、各校で課題に応じた教材・活動案を考え、教材作りや指導の工夫について、「葛西ことばのテーブル」の三好純太先生より指導・助言をいただき、活動案の検討を重ね、活動案集としてまとめた。

II 研究の内容

言語の四側面（音韻、意味、統語、語用）を柱として児童の言語の課題を明確にし、伸ばしたい領域に応じた活動案を考え、実践した児童の様子を報告し合い、より児童の実態に合った指導を行うための活動案となるよう検討した。研究を通して集まった活動案を基に、同様の課題をもつ児童への汎用性をもたせることも考慮しながら協議シートを改訂し、活動案集を作成した。

III 研究の成果と課題

言語の四側面の視点から言語発達面の主たる課題を整理することで、児童の実態や課題に沿った活動案を考えることができた。一人一人の児童の実態に応じた活動案に、汎用性をもたせるという視点を取り入れながら改訂を加えることで、活動案集にまとめることができた。

児童の伝える意欲が高まったことは実感できたが、伝える力が高まったかどうかを客観的に評価することは難しかった。一人一人の実態に応じて作成した活動案であるが、個での使用にとどまらず、より広く活用していける工夫を考えていくことが課題である。

江南ブロック

「よりよい教育相談を目指して」

I 研究の目的

保護者の相談内容が多岐にわたることに加え、難言教育の経験年数が浅い教員が増えていること、自治体ごとに教育相談のシステムが異なることなどから、教育相談(入級相談)に難しさを感じる教員が多い。教育相談(入級相談)の在り方を考え、よりよい相談につなげることを目的とした。

II 研究の内容

「保護者との連携分科会」と「生育歴分科会」に分かれて行った。

・保護者との連携分科会

入級児童の保護者にインテーク時の初回相談についてアンケートを実施した。結果から、在籍学級担任や保護者へ「きこえとことばの教室」について理解啓発をすることや、保護者へのフィードバック方法を検討する必要があることが分かった。教室からの情報発信に加え、情報共有を日頃から行うなど、保護者、在籍学級と連携することの重要性を確認した。

・生育歴分科会

相談時に保護者から聞き取る内容について、その意図を理解するために、子供の発達を「情緒・社会性」、「からだ・感覚」、「言葉」の3つの領域に分け、発達指標を精査した。事例を基にした研究を進める中で、この3つの領域は互いに関連していること、発達を確認するには認知の側面を意識する必要があることが見えてきた。そこで、初回相談時には「言葉」だけに焦点を当てるのではなく、相互の発達の関連を意識して聞き取り、子供全体を捉えるよう意識することが重要であると分かった。

III 研究の成果と課題

早稲田大学教職大学院講師の長岡恵理先生に御指導いただき、よりよい教育相談(入級相談)の在り方を見直すきっかけになった。今後の具体的な活用方法については、各学級で検討していきたい。

多摩西ブロック

「読み書きが苦手な児童へのICT活用の可能性を探る」

I 研究の目的と方法

タブレット端末が一人1台支給されるようになり、難聴・言語障害通級指導学級でもICT教材を活用した指導・支援の幅を広げ、充実を図りたいと考えた。講師として永田真吾先生(山梨大学准教授)をお招きし、読み書き指導の基本的な考え方、ICT教材を通級指導で活用する際のポイント、検討課題などについて学ぶとともに、事例検討及びICT教材の整理を行った。

II 研究の内容

「多摩西版テクノロジーホイール」(ICT教材がどのような指導や支援に活用できるかを円形の表にまとめたもの)、「指導教材表」(ICT教材と従来の教材を対比し、分類した表)、「ICT活用詳細ページ」(ICT教材の内容や使い方、留意点についてまとめた冊子)を作成し、その中から、それぞれが見やすいものを目的に応じて使い分けながら教材を探し、実際の指導に活用できるようにまとめた。また、ICT教材を活用して指導を行った事例の指導経過を記録し、検証を行った。

III 研究の成果と課題

「読み・書き・メモ・意味語彙」などの区分のほか、「指導又は支援」という視点でICT教材を分けることで、何のために使う教材なのかを整理して把握することができた。しかし、それぞれのICT教材の特性や、どんな認知特性がある児童に適しているのかなどを精査しきれなかったことは課題である。今後は、児童の背景情報や認知特性などをしっかりと把握して、ICT教材のより効果的な活用方法を共有していきたい。

<令和5年度連絡先>

団体名		東京都公立学校難聴・言語障害教育研究協議会	
代表者	所属	杉並区立高井戸第四小学校	
	職氏名	校長 本橋 忠旗	
	連絡先	03-3333-7828	
事務局	所属	杉並区立高井戸第四小学校	
	職氏名	主任教諭 吉廣 典子	
	連絡先	03-5336-9521	
団体ホームページ	URL	二次元コード	
		https://www.tonangen.com	